日本基督教団 新横浜教会月報　　2024年1月14日（第199号）

鶏（けいめい）鳴

〒221-0864
横浜市神奈川区菅田町2851
（電話 045-473-7191）

聖書の言葉

「天は神の栄光を物語り　大空は御手（みて）の業（わざ）を示す」

聖書（詩編第１９編２節）

牧師　河合裕志

これは何を歌ったものか。天を、大空を見ればそれは神の栄光というものを物語ってるよ、御手の業を示しているよ、ということ。まだわからない。神の栄光とか御手の業とか一体どういうこと。

これは創世記１章の記述と関係ありそう。そこには神は大空を造ったとか、二つの大きな光る物と星を造って、この二つの中の大きな方に昼を、小さな方に夜を治めさせた、と記されている。大きな方は太陽、小さな方は月ということになる。御手の業はこうした太陽、月、星といった神の作品を指している。作品というには余りに大きな作品。これらが天にあって輝いている、光を放っている。これが神の栄光というもの。

私達はそこまで見たり、感じたりするだろうか。私達も天を、大空を仰ぐ。そこに太陽、月、星を見る。見るけれどもそれらは神の手の業なんだよ、神の栄光を物語っているんだよ、と洞察できるものか。

次のように感じる人は多いかも知れない。太陽は有難い。太陽の放つ光、熱。これによって私達は暖かさを覚え、植物、動物は育って行く。太陽がなければ世の中は暗闇となり私たちは生きて行けない。こうしたことで古来太陽は神として崇められて来た。古来エジプトでは太陽は最高神であり日本民族も神として拝んで来たのでは。今日でも初日の出に手を合わせる人は少くない。

こうした中、聖書の民は太陽の背後に神の存在を見た。創造者なる神がいてこれを造りその光と熱を私達に送ってくれている。そこに神の偉大な力と愛を感じとっていた。イエスはこう言った。「父（神）は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」。太陽の輝きにイエスは神の広大無辺な、全ての人に及ぶ愛を見ている。

この１９編には太陽賛歌が載っている。「太陽は、花婿が天蓋から出るように　勇士が喜び勇んで道を走るように　天の果（は）てを出（い）で立ち　天の果てを目指して行く。その熱から隠れうるものはない」。太陽の輝きに詩人は花婿のような若さ、美しさ、勇士のような力強さを感じている。そしてその「熱から隠れうるものはない」とその大きな恵みをほめ感謝している。私達は太陽の存在を有難く思うと共にこれを天に置いた神に更に大いなる賛歌を捧げたい。月も星も神の栄光、御手の業を物語り、ほめ歌っていることを覚えよう。

集会案内

日曜礼拝：午前 10 時 15 分、夕拝：午後 6 時
子どもの教会：日曜日午前 9 時
中高青年会　：日曜日礼拝後
聖書を学び祈る会：水曜日午前 10 時
牧師面談：水曜日午後 1 時～7 時